

## 第 12 回高等学校改革プラン推進委員会（第一推進委員会）議事録

1 日時 平成 17 年 11 月 28 日（月）午前 9 時 00 分～午後 0 時 00 分

2 場所 NOSAI 長野会館 6 階 大会議室

3 出席委員

中村 正行委員長	市川 浩一郎委員
森野 貞雄副委員長	若麻績 享則委員
青木 一委員	清水 保委員
中沢 一委員	小山 壽一委員
小山 元彦委員	宮本 精一委員
塚田 芳樹委員	丸山 稔委員

4 開会

（三澤教育支援主事）

皆さま、おはようございます。

本日はお忙しい中、お集まりいただきまして、大変ありがとうございます。時間となりましたので、始めさせていただければと思います。

それでは委員長さん、よろしくお願いいたします。

（中村委員長）

はい。

第 12 回高等学校改革プラン推進委員会を開催させていただきます。

前回 11 回のときには、地域からの貴重なご提案をいただきました。委員長名で、事務局よりお礼の書面を出してありますが、この場をお借りして、またあらためて御礼申し上げます。

委員の皆さんにおきまして、熱意を持って言葉で説明していただいたところ、かなり重きを置くところがわかったというふうに考えております。ご質問、ご討論させていただいた内容は、この委員会の議論に含めていきたいと考えています。

ほぼ第 1 通学区全体にわたるご意見をいただいたと思いますので、再度全体を見渡すことにもなったかと考えております。

本日は、第 10 回の旧第 1 通学、第 2 通学区のところで、再編整備候補案について具体的な討論をお願いしたいところが、まだ残っておりますので、その続きを進めてまいりたいと思います。

進め方に関して、いろいろな方からご心配いただいております。12 月末が厳しいのではないかなというご意見もあります。この通学区は非常に検討事項が多いのですが、11 回の地域からの提案等、かなり広くご意見をお伺いしながら、また委員さん方が個別に、各団体からあるいは個人的にもいろいろご意見をいただいて、この場でご発言をいただいておりますので、かなり広い範囲から意見を聴取しながら、推進委員会としての意見をまとめつつあるというふうに考えております。

ですので、やはり具体的なところがもう少し詰めなければいけないと思いますので、今

日は第1通学、第2通学区、また少し進められれば第3というふうにやっていきたいと思  
います。

再編整備候補案についての課題あるいは納得いくところ、そういうところでご発言いた  
だければというふうに考えております。また進め方に関してのご意見をいただければと思  
いますが。

今日は資料はございません。

では、事務局からお願いします。

（三澤教育支援主事）

本日は資料はございませんが、検討に先立ちまして前回地域からのご提案を聞いていた  
だいたとおりで、前回ちょっとお礼も申し上げられませんでした。学校視察に関しまし  
ては大勢の委員さまに、お忙しいところを日程を差し繰りご足労いただき、いただきまし  
て、大変ありがとうございました。本日以降の検討の中で、じゅうぶんに生かしていただ  
きたいと思っております。

それと、今までのほかの地区の推進委員会の様子でございます。第二推進委員会につ  
きまして、11月27日昨日であります。第12回が開催されております。第11回に地域から  
の提案ということで募集をしたところ5つほど提案がありまして、そのうちの2つにつ  
いて昨日ご説明を聞いたところでございます。

話の内容といたしましては、望月高校、蓼科高校の統合について。それと野沢南高校の  
多部制・単位制高校への転換についてということで、検討が行われました。望月高校と蓼  
科高校の積極的な統合により、新たな普通科の高校としていくというような利点。また多  
部制・単位制高校を考えていこうという意見が出ております。

第三推進委員会でございますが、11月23日に第11回が行われております。第三推進委  
員会では、それまでのところで旧通学区ごとのグループ会議というのが行われておりまし  
た。その報告が出されております。岡谷東高校、岡谷南高校の統合についてや、箕輪工業  
の多部制・単位制高校への転換などの意見が出されております。引き続き各旧通学区ごと  
の個別の再編案について検討していくというところでございます。

第四推進委員会につきまして、11月20日に第12回が行われております。第四推進委員  
会では、第12区大北地域でございますけれども、その個別の検討がなされております。大  
町高校と大町北高校の統合について、賛成の意見が多く出されておりましたが、慎重論も  
ございまして、引き続き検討をしていくという状況でございます。また白馬高校の魅力づ  
くりについても、検討がされております。

他の推進委員会の状況にてについては、以上のようなことでございます。よろしく願い  
いたします。

（中村委員長）

はい、ありがとうございました。

丸山委員から資料を提出していただいているのですが、簡単にご説明をお願いします。

(丸山委員)

おはようございます。

いよいよ詰めの段階に入ってきていると思いますので、一番基本的なところということで、この資料は具体的に検証すればわかることですが、県で出している学級数や募集定員の予想の数ですね。それを基にしながら、再編候補案がそのままいけばどうなるかというのを、少し考えてみました。

具体的に学校名も少し挙げながら、予想としてどんな学級数になるのかというところを考えてみて、ポイントとしてはいくつかの学区では、やっぱり19年度実施の再編整備候補案、そのままやればしばらく、場所によっては10年ぐらい、かなり大規模な学校になってしまう。

そういうところは、それでいいのかという問題。つまり再編候補案のとおりには削減はしなくてもいいのではないかとことを考えました。それともうひとつは30人学級の問題、これは前に私から提案しましたが、なかなか議論になりませんが、全国でも高校の30人学級もかなり進んできているわけです。

そういう点では30人学級が、再編整備候補案のとおりには削減されていくと、10数年先までできない。無理である。やるとしても、8学級、9学級という、かなり大規模な学校になってくるということで、基本的にクラス数とか規模の問題として5.5というような数字も出ているわけですが、それを大幅に超えるような大規模学校になってしまう。

そういう点では、大規模校が生まれてくるということでは、30人学級が大幅に先送りになるということからして、必ずしも提案されている数をきちんと減らすということにする必要はないのではないかとことを私は考えているということで、また具体的な議論の中で、また発言したいと思います。

また、ごらんいただければと思います。お願いします。

(中村委員長)

はい、ありがとうございました。

それでは冒頭申し上げたとおり、第1区、第2区のあたりから、再編整備候補案について課題、疑問点、それから納得のいくところといいですか、了承できるところといいですか、そういうところをご意見をいただきながら進めていこうと思いますが、そういう進め方でよろしいでしょうか。

地域からのご提案も、飯山地区、中野地区、かなり集中して何件もいただいておりますので、それとも合わせて違いを明確にしながらやっていきたいと思うんですが。どなたかご発言をいただければ、口火を切っていただければありがたいんですが。

(小山(壽)委員)

飯山からにつきましては、これまでだいぶ今まで地域でも会合を重ねてまいりまして、そういうような中で3つの提案がされているわけです。3つの提案というような形で1本化できなかったというようなその中には、ひとつはいずれのコース制を使うにしても、1校に吸収することは当面はできないというようなことがあります。

それからもうひとつは、地域からの要望として普通高校で2校の選択肢がほしいという

ような思いが非常に強く出ているというような中で動いているかなというふうに思います。

4 市村の首長さんたちにつきましては、かなり高校側の意見を聞いていただく中で、随分と8月時点で出された案からは修正されてきています。何とか当面の間、2校にしてほしい。飯山市内には3つの普通高校がありますが、当面の間2校を残してほしい。これについてはやはり普通高校の選択肢が2つほしいという地域の要望が、強く反映しているのかなと思います。

下高井農林については、県の案も基本的には触れていないというような状況の中で、地域産業との関係で、農林については今後も地域を挙げて支援をしていくというような。

それからもうひとつの職員団体の地区の中から出てきているのは、4市村の首長さんたちの案と非常によく似ているんですが、違いはどこにあるかということ、農林をひっくるめて飯山に2校というようなことでして、農林を別枠にしないというように考えていただければいいと思います。

いずれも平成25年までは、この地区で9学級の募集が可能であると。そうすると農林が2学級募集ですので、残り7学級を2校に振り分けても、4、3、あるいは5、2というような形での3校存続も可能ではないかというような前提になっているということだろうと思います。

それから桂蔭会、飯山北高の同窓会の案ですが、飯山北高は森会長がここで意見表明を申し上げましたし、その前の会に推進委員の皆さんには、中間報告をお配りしてお話をしたわけですが、スタートしたのは6月の初旬で、この段階で北高の存続にこだわらずに、旧第1通学区において、将来の高校のありようとしてどれがいいのかということで議論を始めてきている。

そういう中で、再編整備候補案が県から非常に早いタイミングで示されているというようなことで、若干混乱するようなことがあったかと思いますが、最終的に生徒数の推移等々勘案していけば、当面の間やはり普通高校1校と農林高校という2校を想定していく。これは、やはりある程度規模のメリットというものを生かしていかないと専門的な教育の保障はできないというような観点。

あるいはさまざまな生徒の活動等、2校舎制の中で困難はあるけれど、活性化していく必要があるというような意見。それから普通高校1校と農林高校は、平成20年代の前半に続いていく中で、学校間連携を進めながらいずれ将来6学級規模が想定されるので、さらに1校に統合していけるように、軟着陸を目指す学校間連携をこの間に進めて各校とも準備をしていく。

一方、やはり地域の中で、地域の子どもたちを地域で引き受けて、それで教育をしていくというような観点、地域の次世代リーダーを育成していくというような観点から、中高一貫教育を合わせて実施していきたいというのが、北高の同窓会の意見です。

大体3つの案について、そういうような違いがありますが、基本的には中学生の数が減少していくという状況の中で、さまざまな期間はあるが、統合しなければならないだろうということについては少なくとも共通しているし、内容についても年次の問題はあろうだけで、内容的にはやはり飯山は力を合わせて一緒にやっていかなければいけないんじゃないか。

そういう面では、気持ちは一緒になっているというふうに思います。以上です。

(中村委員長)

はい、ありがとうございます。

私も2つの校舎を使いながら、例えば1つの学校でというのは、なかなか難しいのではないかというのが、静岡、群馬の高校を視察しまして感じていたものですから、飯山照丘、北、南高と見てきました。

ただ周りをグルッと回って、交通の便を見てただけなんですけれど、やはり距離が大学のキャンパスの講義棟の間と、そういうわけにもいきませんから、かなりありますので、1つの校名で2つの校舎というのは、なかなかうまくいかないのではないかとことを感じたのと、具体的に飯山南というのは、非常に立派な建物で、きれいな建物で、高台にあります学校らしい学校という感じがしました。

一方北高は歴史のある感じの校舎ですので、北高にいきなり全部統合するのは、なかなか難しいだろうし、当面はやはり2校を残しながらというのが、現実的なのではないかなというふうに感じたというところでありました。

実施計画というのは、やはり一度に進めるべきというか、一度に提示をして、調節しながら進めるべきだというふうに思いますが、現実的にはその校舎の問題、それから生徒の学年の進行の状況等で、段階を追わなければいけないことですから、計画は一度に示すべきですけど、着手は徐々にやっていけるのではないかなというふうに思います。

ちょっと感想を含めて申し上げましたが、何かほかにございますでしょうか。

(小山(元)委員)

飯水岳北地区の概要について、今、小山(壽)委員さんがおっしゃられた、そのとおりであります。地域的な立場で、いろいろ申し上げさせていただくとすれば、委員長さんが今、視察されたとおっしゃった、北高と南高のキャンパスの間が非常に距離があるということと、もうひとつ冬場になりますと相当雪が積もるんですよ。

ですからその間を子どもたち、生徒諸君が2つのキャンパスで行き来する場合の交通的な問題、雪が降りますとやっぱり自転車では無理であると。それと、やはり2つのキャンパスで考えてきた場合に、1つの学校としての生徒諸君が一体となるかどうか。組織的な考えとすれば、県教委はどのように考えていらっしゃるか知りませんが、校長が一人で教頭さんを二人配置するようなことをお考えになるのか。

また教頭は一人で運営していくのかということも、それは県教委の立場だと思いますが、そしてまた普通科高校3校を1つという、3がすぐ1つになるということは、地理的にも最初から問題があると申し上げますけれど、非常に心情的にもいろいろな面が出てきているわけですね。

やはり生徒、中学校の生徒諸君の選択肢の問題、そしてもうひとつは地域における経済効果なんです、高校を1つにするということは、これは地域にとって非常に大きな問題になる。そしてまた今、大事に検討しているのでは8年後に飯山に新幹線が開通する。そういう、ひとつの大きなものが控えている。

そしてそれを機にしながら、飯山のスキー産業も今後大事に取らなければいけないという、昨日もまたその話し合いがあったわけです。南高にあります体育科のスキー部の活躍。また隣の飯山北高のスキー部の活躍、下高井農林高校のスキーも、もちろんそうでありま

す。スキーでやはり全国レベル、そして国際的なレベル、ノルディック世界選手権にも相当出ております。

今も 10 数人の候補者が挙がっているわけで、世界選手権、オリンピックに向けての取り組みをやっているわけですが、そういうスキー産業という、飯山でなければできないものであると思うわけですね。

そういうものを支えてきている、飯山南高の体育科、北高での活躍ということを考えますと、3 普通科高校を即 1 つということは、非常に地域にとっても大きな問題になってきているわけです。

ですから 4 市村のほうで出された意見であります、9 学級編成できる、いわゆる県で出された平成 25 年までは、統合していった普通科高校を 2 つにさせていただいて、そしてその後 1 つに統合する。少子化に伴う最終的な考えというのは、今、小山（壽）委員さんがおっしゃられましたように共通した考えというのは出ているわけですが、そういうところでやはり地域的な立場で考えていって、25 年度までは普通科高校 2 校存続と考えています。

（中村委員長）

はい。ありがとうございました。

両小山委員さんのご発言に共通しているというふうに解釈してよろしいかと思いますが、何か課題等お気付きの点、ほかの委員さんでありますでしょうか。

（丸山委員）

先ほど示した私の資料でも、同じ意味のことを言っているのですが、今の二人の委員さんの提案に、基本的に私はそれでいい、そういうことが当面いいんじゃないかと思います。年次的に 9 学級編成までは、普通科 2 つ維持をすると、これはこの前の意見の中で特に 2 つの校舎を使って 1 つの学校といっても、それはまったくいろいろな問題が出てきてあまり意味がないという点もあり、これは私もそういうような方向が一番いいのではないかと思います。

その先については、せっかくこれだけ地域の議論が始まっているわけだから、地域の議論をしていただくということをやっていけばいいと思うのです。その中でやっぱりひとつ大事な点は、今、規模のメリットという話があったのですが、以前から主張しているように、例えば、われわれの現場からいって、経験的にいって、6 学級というのは確かにやりやすいというか、一番合理的といえますか、そういうところは実感としてはよくわかりますが、これは一律すべてが 6 ぐらいになったほうがいいとは思いません。

特にその学校の地域だとか、あるいはその学校の全体の学校のバランスの中での位置付けによっては、それ以下の小規模の学校でも、じゅうぶん小規模のメリットというのが生かされると思うわけです。何か小さい学校はダメというような感覚があるのですが、これは例えばこの前の意見の中でも、中条、犀峽の調査をした報告がありましたが、小規模校のメリットというものが書かれているわけで、それをわれわれはかなり重視をしていく必要があるのではないかと思います。

学校というのは、効率がいい悪いということだけではなく、もっと我々のイメージからして学校というのはもっと小規模に考えるべきではないか。ちょっと余計なことを言いま

すが、私は教員を長くやってきてよく言われたことは、学校長が生徒の名前と顔が全部一致する学校がほんとはいいんだと。

ある調査によれば、教員が名前を覚えられる数というのは300名が限度だという話をよく聞かれるんですよ。それから私のいる中野高校ですが、非常に生徒もわれわれも努力をして募集定員をオーバーするようになって、いろいろ注目されて、いろいろな取り組みもたくさん進んでいるわけですが、非常に地域からよくなった、中野高校がよくなったという評価を与えられています、それは生徒やわれわれ職員が努力をした、それを県でサポートしてくれたということももちろんありますが、私は4学級という小さな規模になったということが、すごく大きいと思うんですね。

私は生活指導をやっていますが、さすがに顔と名前は全部一致はしませんけれど、私服を着ていて町であっても、顔を見て「あ、うちの生徒だ」とわかるんですよ。4クラスぐらいたと。生活指導だから、特に生徒と付き合いが多いですから、大体顔はわかるんですよ。「あ、うちの生徒だな」「見たことあるな」ということはわかるんです。

そういう点で行けば、やっぱり飯山のような地域は、あまり6とか7とか8とかというのにこだわらずに、やっぱり4や3ということもあり得ると思うんです。そういうことも含めてひとつあります。

それからもうひとつ最後に、これも出ていましたが、校舎の問題はやっぱり県の提案で行くと北高の校舎を使うというのだけど、申し訳ないけど北高の校舎は非常に古くて、やっぱりそこは、本当にそうだったらどうするのかという改築も含めて、やっぱり考えてきちんと、学校というのは何か新しいことがスタートするときには、ほんとに施設もきちっと新しくスタートをするということが非常にいいと思います。

群馬は、私は視察はしませんでした、非常にお金をかけていますよね。やっぱり新しいことがスタートするときは、何となく校舎の古いままというのは、ある程度お金をかけて、全部とは言わなくても全面改修じゃなくても、設備、施設をよくするということがすごく大事だと思います。

それと基本的にはさっきの年次的にやっているということがいいのではないかと思います。

(森野副委員長)

ただ今のご意見ですが、私も賛成であります。

それでもうひとつ、尺度して考えていただきたいのは、志願者数ですが、過日、11月の2日に報道されました。高校入試の関連の志願者数です。そうしますと飯山の場合、飯山照丘が、志望者数が定員を満たさないですよ。募集定員80名のところ、前期選抜、後期合わせて29人です。

はたしてこの数が最終になるかどうかわかりませんが、今度は子どもの目線で選択肢というものを見ていく必要があるのではないかなと思います。今もお話がありました25年というような目途でございしますが、やはり子どもが魅力を持って選択してくるという学校でなければ、地域が努力し、先生方が努力し、みんなで努力しているんだけれども魅力がないという結果でありますので。

ですから飯山の場合照丘、名前を出してしまって申し訳ないですが、カットしていくし

かないのではないかなと、そんなふうに私は思うのです。結論を急ぐわけではありませんが、なかなか進みませんので、これから進めていく上で志願者数というものも考慮に入れていくべきではないでしょうか。

それで県にもお願いしたいんですが、過去どのようになっているのかね。そうしたデータをお示しいただいて、進めていく必要があるのではないか。そのプロセスが大事じゃないかなと私は思っています。

(小山(壽)委員)

今の発言は大変大きな発言ですので、撤回をしていただきたいのですが、一次調査の段階で照丘以外にもそういう状況になっている学校はいくつかあります。われわれが高校のサイドでこの統合問題を考えたときに、どこかの学校についてなくしてしまうという考えはまったく持ってないんですね。

だから、A校とB校が一緒になってC校になっていくという発想の中で考えておりますので、志願者が今一次調査で少ないのに、その学校をカットしていくというような言葉はぜひ撤回していただきたいと思います。

それから、そういうことを前提にわれわれも飯山地区の高校のありようというものを考えてきているわけで、どこかの学校をなくしてしまってもいいという発想の中で、飯山地区の高校の今後の有り様について考えてきたわけではない。どういうふうにしていったら、地域の方の理解を得ながら、なおかつ少子化に対応して高校を統合していけるか、こういう観点で考えてきているということです。

それから体育科、理数科の特色を生かしているというふうに簡単に言うのですが、それは体育科の特色を生かすために飯山南高校には、ものすごくたくさんの体育の教員を配置しているわけです。それはよその学校とは、ちょっと比べものにならないくらいの数を配置している。同時に寄宿舎がありますからね。寄宿舎指導員も、実は実際教員が寝泊まりして生徒指導をやっているわけですね。そういう部分の加配措置もある。

逆に理数科について言いますと、理数科を持つ学校の中で、一番規模の小さい学校が本校。大町高校にも理数科がありますが4学級です。木曽高校に理数科がありますが、これも普通科を合わせて4学級です。

本校も、今年度は4学級募集をしましたが、来年度は3学級募集。そして今の2年生が3学級募集。非常に規模が小さい。規模の小さいと再々にわたって申し上げたんですが、教員が確保できない。こういう問題があるんです。専門性のある教員を確保しないと。そのためには一定の教員の数確保していく必要がある。

特に理数科を生かしていくということであるならば、必然的に一定の規模が必ず必要になる。例えば今、市内3校の普通科がある。どこの学校も、みんな家庭科の先生がいる。どこの学校も音楽の先生がいる。美術の先生がいる。うちは、書道を置いていませんが、書道の先生も3校の中にはおります。

しかしじゃあ、その先生をちょっとうちのほうへ貸してほしいというようにいかない。ここは、そんなの兼務していけばいいじゃないかとお思いになるかもしれませんが、例えば2つの学校があったときに、2つの学校で教員数がそれぞれの学校の30、30いたとしますね。30、30のうち10ずつ兼務させるなんていうことはあり得ないわけです。

ひとつの学校になると、兼務ということではないですから。主な勤務場所が、どちらの校舎なのかということになってくる。教員を、3校効率的に活用できる。ただもちろん2校舎制を取っている学校なんてないわけですから。一時的には3校舎制になる。非常に困難を伴うとういことは、承知している。その分については、県が最大限の支援をしなければいけないと、こういうふうに思います。

また先ほど丸山委員さんがおっしゃいましたが、やはり校舎をできるだけ、できれば全面改修してほしいという思いはあります。しかし、われわれとすれば飯山地区だけではありませんが、高校の同窓会としてはどこの地区にあっても、やはり卒業生が大勢出てくる。それぞれが地域が育ててきた学校ですから、そのことを尊重しながら受け継いでいくような学校づくりをしなければいけない。そんなふうに考えます。

ぜひそのところを、よろしくお願いいたしたいと思います。

（森野副委員長）

言葉が足りなくて申し訳なかったと思います。

私が言っているのは、将来的に見て。地域の方のお話もひっくるめて、2校にしていくということと一緒にです。それで農林は生かしていくと。だから地域の特色は生かれます。

そういうわけで私が言っているのは、廃校というのではなくて、要するに部校制というか、そういう意味で申し上げたわけです。ですからそこをひとつ。とにかく子どもは大事です。地域の宝ですね。ですから、公教育である以上、やはり子どもは切っちゃいけないですよ。これはもう、私の信念ですから。

ですから気持ちは同じですね。共通しておりますので、誤解なさらないようお願いしたいと思っています。ですから今は、ずっとこれは出てきます。先ほども丸山さんのほうでお話がありましたが、犀峡にしろ中条にしろ、これもこの前でしたか会合を持ったときに中条の村長さんが、ジョイントでも分校でもいいんですよ。高校を残してくださいと。私は、このご意見に賛成なんです。

そういう意味で、誤解のないようお願いしたいということでございます。

（塚田委員）

地元の両小山委員さんにちょっとお聞きしたいのですが、この間もいろいろお話をお伺いして、やはり飯山地区ではいずれこの普通高校は統合していかなければいけないだろうという意見が大変多いということで、ただ时期的な問題があると。しかも校舎が2つというのは非常に反対があるということだと思います。

やはり飯山地区全体で、高校を統合していかなければいけないという気持ちを、醸成をしていく意味では、例えばこの3つを今回統合して、例えば「飯山高校」という形にして、北キャンパス、南キャンパスと2つ分かれるというような高校がないと言いますが、大学などではいくらでもあるわけです。ですから南キャンパス、北キャンパスというような形にして、そうすると今、小山（壽）先生が言われたような、例えば高校を掛け持ちということではなくて、キャンパスという形のことができる。

だから生徒の移動が難しいことになれば、先生にも大変ご苦労けれども移動していたいて掛け持ちをするということが、ひとつ考えられますが、そういうことが私はちょっ

と地理的なことは、委員長のように実際には見ていないのですが、その辺は両委員さん、地元でどうでしょう。

（中村委員長）

まず、キャンパス２つにというのは、学ぶ人をもう分けてしまうということですね。

（塚田委員）

しかし、大学などではいくらでもあるわけです。

（中村委員長）

大学は学科単位で分かれますので、比較的やりやすいですが、共通的な基礎教育の面をバス移動なり、電車移動で対応したりというのは、都会の大学ではあります。ですので、学ぶ人を分けてしまうとなると、やっぱりこれは別の高校というふうに考えないといけな

いんじゃないかなと思いますが、小山（壽）委員いかがでしょうか。

（小山（壽）委員）

長野県では、まだ今まで例がないというふうに思っています。この統合していく中で、一時的に２校舎制の時期が出てくる、そういう学校は統合の間ありますね。当然それは、そういう問題としてあるわけですが、この北高と南高はおおよそ距離にすると４キロあります。照丘との距離が７キロくらいあるかな。これは、車を使えば教員は移動ができる。

雪の問題があるんですが、幸いにして私もまだこの冬を経験してないものですから、実態についてはわかっていないのですが、聞いている中で言うと、主要道路については消雪パイプがすべて埋設されていて、車で職員が移動する分には、そんなに不自由はないだろうというふうには思っています。

そういう意味では、教員の有効利用ということをして３校同時に、一緒に考えていくということはやれるのかなと思います。これが別々の高校ですと、なかなかそれができない。兼務という形は職員が嫌いますので、兼務だと担任が持てないとか、所属感がなかなか厳しいということがありますので、できればその辺をうまく効率的に先生たちに活躍してもらえれば、それなりの学校がつくっていただけるのではないかと思います。

ただクリアしていかなければいけない問題というのは、非常に多いんですよ。じゅうぶん例がないということで、点検し切れていないというふうに思います。三重県には、南伊勢高校というのがありまして、これは２校舎制、２つの高校が一緒になって南伊勢高校と。校舎は２つで、１つの学校という認識がある。

それから尾鷲高校というのが、やはり三重県にありまして、これは３つの高校が一緒になりまして３校舎制。今、先週の、曜日を忘れてしまいましたが、照丘高校の教頭さんと、南高の教頭さんに、視察に行っています。また詳しい話を聞きながら、その課題についてどのような課題があるのかとういことについて、考えていきたいなというふうに思っています。

当然２校舎になったときに、どの生徒がどちらの校舎で学ぶという問題は出てくる。それから学力幅が今以上に広くなるということが想定されますので、当然コース制を両方取

ってもらわなければいけない。じゃあ、どのコースを、どちらの校舎に設置していくのか。またどの段階をでコース選択するか。さらなる問題が、もろもろ出てくるだろうと思います。

従って似た普通科高校ということで、当然普通科高校ですから同じなんです。しかし、今生徒たちが学んでいる学びの内容というのはかなり違いますので、教育課程が違い、教科書も違い、そこら辺もどういうふうに教育課程を編成していく、コースを編成していくということは、大変重い課題だというふうに。時間がとにかくほしい。そういう意味でいうと、早くそこに向けて議論をしていきたい。そういうふうにしないと、19年というのは間に合わない。そういう焦りに似た気持ちもあります。

(小山(元)委員)

今の飯山北高の建物の場合には、学年6学級は収容できないものですね。5学級までが限度ですから、県の再編案に示されたのは、そういうことを加味しながら、いわゆる飯山南高の現在の建物を体育科を中心にしながら使うんだというもので来ているわけですが、私的なことで失礼かと思いますが、私が生まれて育ったうちの、すぐ上のところに飯山南高がどんとそびえているんですが、すばらしい学校ができたなということで、ほんとに地域の方は喜んでいたわけですが、昨年飯山南高の子どもたちが通いやすいようにということで、広い道を下の静間バイパスまでずっと抜けたんですよ。これも地域の方が大事にしながらつくった公道でして、非常に交通の便もよくなければいけないと。

5年前の飯山国体のときに、飯山南高の前を通過、長峯運動公園のほうへ大きい広い道ができていたんですよ。その道を使いながら、今、バスも通って、飯山駅から南高の子どもたちは通い、また北高のほうへ行くにも、やはりその道を使っているという状況です。それは地域でいろいろ高校生のことを支援する立場として、地域の子どもたちがそれぞれの高等学校にほんとに満足するように、全面的に協力をしているわけでありまして、やはり先ほども申し上げましたが、3つの普通科高校が即1つになると、2つに可能な限りは続いていて、そして最終的には1つにならざるを得ない。その2つというのが、地域にとっては非常に大きな夢なんです、これは。

そういうことを大事にしながら考えて、高校教育の。学ぶ者の立場を大事にし、また選択する幅を大事に残してもらおうということが、委員としての一番願っていることです。そういう点で、検討いただければありがたいです。

(中村委員長)

ほぼ、ご意見はよろしいでしょうか。これは、まとめをイメージしながら進めていかなければいけないということで、議論が拙速とかそういうわけではなくて、12月末を目標にということですので、まとめをイメージしながらやっていきたいと思います。

具体的には今のようなご意見が、この推進委員会のご議論であるということで、地域の意見を尊重しながら、その検討事項を最大限に生かしてわれわれがここで討論した内容を含めて、推進委員会としての報告書にまとめていくというのが手順だというふうに思います。

第1通学区全体を見渡したものをやり含めていかないといけないので、この推進委員会

の議論が非常に大事になっていくというふうに思います。

ということで、報告書をイメージしたときに誰が書くかということですが、分担していただくなり、私がまとめたたたき台を皆さんでご検討いただくなりということで進めたいと思っていますが、何かそういった点でご意見があれば。よろしいでしょうか。

ということですので、今、飯山地区といいますか旧第1通学区でご議論いただいたことを、あえてまとめという形ではしないで、議論の方向性はほぼ1つになっていたと思いますので、それを文章にまとめた段階でもう一度議論していただくということで進めたいと思います。よろしいでしょうか。

また言葉ですと言い方が決まりませんので、不確定な部分がありますので。

（吉江高校教育課長）

すみません。第1区につきまして、いろいろご議論いただきましてありがとうございます。

それで今しがた出ておりましたように、第1区につきましては、おおむねの方向性はほぼ皆さまのお考えが同じ方向を向いていらっしゃるかと思います。時期の問題等ございすし、また先ほど三重県の例も出ましたが、2つのキャンパスの中で教員が移動して、生徒は両校で当面の授業を行うというような形態利用のお話も聞いておりますので、ひとつとしますと私どものほうの候補案にも、当面は2校の校舎を使いながらというような話が入っておりますので、その辺も含めて最終的な取りまとめをお願いしたいと思います。

それと含めまして、いわゆる川東、川西という言葉がいいのかどうかはさておきまして、対岸のほうにはもうひとつ農林高校がございます。この農林高校そのものを、今現在はいわゆる専科というような位置付けではございますが、そこに例えば今後合わせて違う科、例えばの話が普通科とか、そういうようなものを配置するのがいいのかどうかというようなものは、今後の選択肢に当然ながら考えられることの議論があらうかと思っておりますので、その辺も含めまして、取りまとめをお願いできればと考えている次第でございます。

（中村委員長）

はい、ありがとうございました。

下高井農林に関しては、かなり発言があったというふうに思いますので、そちらの方向でよろしいかというふうに思います。またお気づきになった点を挙げていただきたいと思います。

旧第1通学区に関して、歴史的といいますかかなり以前から議論をしていただいているので、なかなかきちんとしたまとめになっていくのではないかとこのように思います。同じように第2ですね。中野地区で候補案が挙がっておりますが、その第2区の関連に進めていきたいと思いますがよろしいでしょうか。

（丸山委員）

1はそれでいいと思いますが、各地域の皆さんの動きが出ていますので、何というかよくわからないのは、地域の中での検討の経過というかまとめというか、そういうものところで決めることとの関係というのは、どのように考えるのですか。

(中村委員長)

先ほど発言をしましたが、地域の意見、検討というのは最大限生かしていかなければいけないと思います。またそれは、検討していただきたい量といいますが、時間といいますが、そういうものも非常に大事なというふうに思います。

飯山地区に関しては、かなり前からご検討いただいていますし、単に期間的な長さというよりは、集中してご議論いただいて、提案も何団体か広くいただいておりますので、そういうものは最大限地域の意見として、推進委員会で取り上げていかなければいけないと思います。

そこにわれわれがシステムとして魅力づくりを、最初のころ議論していた、それを生かしていく。高校はその地区だけのものではありませんので、流出入の問題や交通の便の問題、それから総合学科高校といった種類の問題と、そういうものも含めて考えたいと思っています。それが推進委員会の役割だと思います。

地域の実情に関しては、やはり教えていただかないと、単に視察というだけでは、なかなかわからない点がありますので、そこはご議論をいただいた意見を、これまでも委員会の中でご報告いただいたり、それから第11回のときに集中してご発言をいただいたりしていますので、それを生かしていくというふうに考えています。

(小山(壽)委員)

ぜひそういうような中で、今「システムとして」という話がありましたので、飯山とすれば併設型の中高一貫校を希望しております。「併設型」を希望しているということについても、ぜひ推進委員会にご議論いただきたいと考えています。

(中村委員長)

ありがとうございました。

いったん1区を区切って、次2区へ移りたいと思いますがよろしいですか。

再編整備候補案に挙がっているところから、まずご議論いただいたほうがよろしいかと思いますが、中野高校と中野実業高校を総合学科高校へ転換し、校地校舎は中野実業へという候補案ですが、こちらも飯山の帰り道に見てきたんですが、中野西高校は非常に新しい高校で、それから先ほど飯山南高校へのアクセス道路等の整備の状況をご説明いただいたとおり、中野西高校の周りも、これは都市住宅地としての整備なんでしょうか。非常に発展途上である、整備されつつあるところなので、新しい雰囲気はかなりありました。

中野実業高校は、市役所、市民会館等に近い都市部にありますので、校地もそういう都市部にあっては非常に広いイメージを受けました。でするので、再編整備候補案にあるようなやり方が、私は外見から見た話で申し訳ないんですが、それにもかなっているかなと思っています。

また駅の関係ですね。交通の便も非常にいいところで、ただし総合学科高校へというところが、かなり議論が集中しているところですので、その辺も含めまして、地域の意見もいくつか分かれている点もあろうかと思うんですが、ご意見をまたいただきたいと思います。

これは青木委員、お願いいたします。

(青木委員)

委員長に指名されましたので、ちょっと口火を切らせていただきますけれども、この間の11回のときに、この第2通のほうもそれぞれ議論いただいているグループから提案があったことはご承知のとおりであります。今の委員長さんが説明してくださった県教委の提案に対して、プラス普通高校を1つにして、そして中野実業高校を単校で総合学科にするという対案が一つありました。

それから3つの学校を1つにし、総合学科にするという、もう一つの対案が出ております。ですから基本的に総合学科高校を受け入れるという形で、もともとの県教委も含めて三案が出されているわけであります。それと同時にもう一案が、総合学科高校はちょっと心配、不安が多過ぎるという否定の論議も1つあるということで、地元では4つの案が今出ているということで、集約している最中でありまして。

ただ今の1通のほうでもありましたように、地域の意見を最大限尊重していくということからするならば、地域の意見がまだ集約的に1本にまとまっているという時期まで到達してないことは事実であります。

ですからその点では、今長野県全体に期限的に宿題が、限られている時間の中では、その中にはめ込んでこれから地元のほうで意見を集約する、議論を集約していくには正直時間がないことが事実でありますので、大変私自身もその点では焦りがあることも事実であります。

ただこちらの推進委員会のほうで、地元から出されたその案を、特に総合学科を受け入れるという、その3つの案に対して、いろいろとご意見をいただけるかと思っておりますので、その議論をちょっと皆さん方に、それぞれ「その案はこうじゃないか、この案はこうじゃないかと」ということを、やっぱりご指摘いただくならば、それもまた地元で受け入れて議論を深めることになっていくかと思っておりますので、ぜひともご意見をいろいろちょうだいしたいなという思いがあります。

(中村委員長)

はい。今、青木委員からのご提案ですが、私も提案をしていただいた団体さんがたくさんありましたが、それに関してのご質問等を出させていただいたわけですが、評価もしたほうがいいんじゃないかということをおある方から言われまして、それを1つずつやるのは非常に時間がないませんでしたので、それはしなかったわけですが、第11回の中で議論という形でさせていただいたわけです。

ただ今青木委員から出た提案で、3つの案。再編整備候補案を含めるともうひとつ。それに関して課題、それから、それは納得できるという、そういうご意見をここでちょうだいしたいと思いますが、推進委員さんの立場として、多分地元の方々もまだ勉強中というところが、かなりあるかなと思うんですね。ですから全体を見渡した中で、総合学科高校の位置付け等意見があれば、推進委員会の意見も取り入れていただけるというふうを考えています。

何かご意見がありましたら、お願いいたします。

(丸山委員)

前々回ですが、私から総合学科についての問題点を、この委員会で指摘をしてきました。それはそれとして、今繰り返しますが、いろいろな案が出ている。やっぱり第1区と同じような意味で、普通科が1つになってしまうとか、そういう不安がやっぱりあるからだというところもあるだろうし、それから総合学科というものがほんとにいいのかどうかというところが、まだ不安が残っているという点があると思うんですね。

これは状況だけお話ししますが、私のところへも委員をやっているということもあって、私がいろいろ問題を指摘しているから私のところへ来るんだろうとは思うけど、いくつかの意見が来ています。まったくの市民の中からです。そんなにたくさんではないですが、10人に近い人からいろいろな意見が出ています。

一番多い意見は、率直に私も指摘しましたが、自分の息子、娘は例えば中野高校や中実にいる、今までいたんだと。今度総合学科には行けなくなるんじゃないかと、行き場をなくすんじゃないかという心配をものすごくしているんですね。ところがそういう人たちの意見はなかなか出てこない、言いにくいというのがあるんですね。

これは私たちの所属している教員組合の研究集会のときの集いで、高校改革プランの集いの中で、あるお母さんが言っていました、私はそれはすごくショックを受けましたが、なるほどそういうことなのかと思いましたが、要するにはっきり言いますと、統廃合にかかわっていない学校と、かかわった学校との違い、特に統廃合にかかわってくる学校については少なくとも、こういうふうに言ったかどうかわかりませんが、学校格差の中での中位から下位のところで、上位の学校は統廃合になっていない。

そうすると統廃合について問題を指摘すると、負け組になると。子どもも自分も負け組を宣言するようなものだ。だからなかなか言えない。そういうことを考えてみると、私のところへ来ている意見の中で、うちの息子、娘は、中野高校がつぶれたら行くところがないよというね。そういう何というか、悲痛な叫びのようなものが私のところへいっぱい来ているわけです。

そのところはしっかり考えていく必要があるし、ということはそれは例えば総合学科をつくるとしても、そういう地域の生徒をいろいろな問題を抱えて、学力もついていなかったり、そういう子たちもじゅうぶん吸収できるようなというか、入れるような総合学科なり新しい学校なりあり得るのかということを、この地区だけでなくやっぱり大きな問題だなと思うし、それはそれとして、この前の議論の中で私も質問しましたが、やっぱりその総合学科の問題点や、私が指摘したような問題点は、やっぱり地域でもまだじゅうぶん議論されていないんですよ。私が質問したら、まだじゅうぶんそこは議論していませんと言いますよね。

そのところは、やっぱりきちんと議論する必要はあるし、そうは言っても大きな流れとしては、総合学科は良いものではないかという動きの中で、地域がなっているの、それに対していろいろな意見が出てきているので、どのように調整するかということがありますが、ここは特に中野のこの問題については、やっぱり検討していくには、もう少し時間が必要だなということが、つくづく感じるんですね。

とすると、推進委員会なら12月なり、ずれ込んでも1月かなという話、ちょっと出たりするんだけど、それとの関連はどうなるのかね。地域でのとてもまとまらないといいます

か、いろいろな意見が出てくる、いろいろな心配が出てくる、それをどうフォローしながら推進委員会で決めるのかということが非常に心配です。

ちょっと意見ではなくて、感想みたいなことで申し訳ないですが。

(中村委員長)

はい。中野地区に関しましては、前の推進委員会でほぼ合意事項が出ていると思います。総合学科高校を導入して、中野、中野実業高校を統合してということで、そこはご了承いただいている点だと思うんですが、ただ今も青木委員からのご提案は、今地域からの意見、これに関しての評価というんでしょうか、これに関しての課題等、皆さん方もしお持ちであれば出していただきたいということで、お願いしていたので、総合学科高校というのは何度も申し上げますが、かなり自由度の大きな学校ですので、課題になっているようなことは、やはりつくってからでもいいですか、つくってからきちんと工夫しながら進めていける点というのはあるというふうに思います。

ですので、この導入する部分はご了承いただいたものとして、それをステップに次の段階に行きたいというふうに思いますが、そういうことでお願いします。

どうでしょうか。いくつかいただいているこの冊子の中のご提案に対して、ご意見がありましたら、具体的にお願いしたいと思います。

(宮本委員)

中野地区について詳しくわからないのですが、前回の提案の中で出てきているのは中野西高校の位置付けだと思います。県教委で出されたところでは、触れていなかったのですが、中野西高校を含めてという同窓会やあるいは、提案がありますが、その辺のところについては中野地区としては、一緒に含めてというようなことも、地域から多く出されているのでしょうか。その辺のところは課題になっていると思いますがいかがでしょうか。

(青木委員)

それは中野市として、中野地域としてこの3高校のあり方を県が示してくださったプランに基づいて、どうあるべきかを考えようという、そのきっかけをつくったときに実は対象から外れていた中野西高校の関係者も交えてスタートしたということなんです。

ですから3高校の同窓会長さんを中心として、まずどのようにして中野地域の高校のあり方を考えていきましょうかということからスタートして集約されたものが、この間のプレゼンテーション、3つありましたが、最初の「懇話会」という代表の方が発表したものが今回あったわけですね。

ですから決して対象校2校だけでの集約ではなかった。考え方、進め方であります。それに対して別の対案が2つ出てきたということなんです。

(中村委員長)

宮本委員、よろしいでしょうか。

(宮本委員)

はい、わかりました。

(青木委員)

それで、総合学科のことはまだちょっと理解が。これは新しいことでありますから、不安がいっぱいということなんですけれども、それはそれで置いておいて、総合学科高校の形態が今3つ出ているわけなんですよ。その3つのうちの1つが大変、3つの高校を1つにして総合学科ですから、大変大規模な学校になることが予想されるわけですね。

でありますからその辺を教育現場の方は、よくご存じの方のご意見、どんなもんですかというその評価をいただきたいことがひとつと、それと普通高校を2つにして、総合学科は中野実業高校の単校を総合学科にするという考え方がもうひとつの案でありますから、そのことを教育現場を預かる委員の方、何人かいらっしゃるわけですから、それはどう評価できるというような意見を、ちょうだいしたいのです。

(中村委員長)

中野実業高校だけを単独で総合学科高校へという、これはやはり普通科を2校残したいという、そちらが主なんでしょうか。

(青木委員)

私の理解は、総合学科は普通高校と実業系の高校を一緒にするのはいかなものかなという考え方がスタートで、ならば実業系は1校にして総合学科、普通系は2校にまとめて、要は3つから2に減らすんだったら、そういう減らし方がベターじゃないかという考え方だと推測しています。

(中村委員長)

西高がちょっと離れたといっても非常に近い位置ですが、新しい学校ですね。

(青木委員)

まだ、20年の歴史ですね。

(中村委員長)

ご意見ございませんでしょうか。

(小山(壽)委員)

私の前回の提案は、今の市長さんがおっしゃったのが私の提案だったのです。中野と中野西というのは普通科であるので、普通科のほうを1つにして、中実を総合学科に転換を。ただ必ずしも中実を総合学科に転換するという部分が、はっきりと出ていなかったような気がするんですが、そういうのが一案。

それから中野市の市民会議の方の提案は、中野と中野実を統合して、中野西は残していいというような意見。それから中野の同窓会の方が、3案ご自分で出されました。1案、2

案、3案、お一人の方で…。

（青木委員）

お一人の方は2案提案しました。要は3つを1校にすることと、普通校2つを1校、実業1校というのと、この二案を提案してくださった。

（小山（壽）委員）

そうでしたかね。恐らく中野地区は、私もちょっと細かい数字がわかっていることでもないんですが、将来的にいうと6学級校が2校という感じではないかと思うんですよ。そのときに1校で10学級を超えるような総合学科高校というのは、あのとき確か埼玉の伊奈学園などをひとつのモデルにしてお話になったと思いますが、相当な困難を伴うんじゃないかなという印象を持ちながらあのとき話を聞きました。

だから普通科なんだから普通科同士をとというのは、決して理に合わないことではないと。そんなふうには思いながら聞いておりました。ただ中野地区でどういう議論を重ねられているのかということをつかずに、突然聞いちゃいますので、なかなか今ここでご意見をというふうに言われても、極めて一般的な話しかできません。

そんなふうな印象を持ちました。

（青木委員）

それで、地元の地域の意見を尊重することを先ほど幾度となく、委員長さんからお聞きしているわけなんですけれど、恐らくこれからも中野市を挙げてということも、ちょっとまだ周知が不十分ですが、少なくとも市民会議的なものは1回開きましたけれど、これから2回、3回も開いてくださるものと私は今期待しているわけなんですけれど、それを開く時間的なペースですね。こちらでまとめていくということが、どうしてもずれが出てきてしまう。

それが非常に私自身苦しいところですが、地元の地域の意見を聞くということも、という形で受け止めていただければよいでしょうかね。

（中村委員長）

はい。推進委員会の目標が12月末、ずれ込んでも1月初頭ということですけど、やはりこれは全県にわたっての意思だと思うんですね。ですから、地域のほうもある程度合わせていただいて、集中的にやっていただきたいですね。

時間を掛けたからといって、なかなか決まるかどうかというのはわかりませんし、限られた期間内で上げていただけた案が、今ここに3つ出てきている。これは文章の上ですけど、発言もいただいていますから、それを相対的に比較して課題が見えてくるんじゃないかなというふうに思います。

それをまとめていくということでも、地域の意見を反映している。地域にも迷いがあるんだと思うんですね。ある程度推進委員会で議論をして、こちらの方向がということが言えれば、それも地域のほうは参考にしていただけるのではないかと思います。

ですので、市民会議を開く時間がとおっしゃっているのは、できるだけやはり開いてい

ただければこちらのほうも助かりますし、より地域の実情を反映したまとめになっていく  
るのではないかというふうに思います。

(丸山委員)

率直な話が当事者の学校だからものすごく言いにくいのですが、率直な気持ちで言いま  
すが、私は前から言っているように、総合学科についてものすごく心配をしています。

詳しくは繰り返しませんが、その魅力というか特徴、特色のよさというか、そういうの  
が生かされるのが5、6年とか、そういうスパンだろうと思います。だから全国のいろいろ  
なところを聞いても、そのころになったら新たに廃校を含めたような検討をしてくるのが  
あるわけですよ。

そういう点でひとつは、この前も中野について議論を集中的にやったときに、この会で  
も大方総合学科がいいんじゃないかという話だったので、それはそれで仕方がないですが、  
まとめのときには私等も含めた問題点を指摘したのは、ちゃんと県への報告書に入れてほ  
しいと思っています。

それで実は中野高校の同窓会なんで、私の学校なんでね。少し言いますと、やっぱり率  
直な気持ちはやっぱり要するに廃校も反対なんですよ。統廃合は反対。いくらカッコいい  
こと言ったって、中野高校はなくなるんですよ。実高もなくなるといえばなくなるんで  
すけど。そういうことが基本にありながらも、数の上からいっても仕方ないので、いろい  
ろな案がでているわけですよ。

その中であるのは、やっぱり地域の皆さんの中には、普通科に対する不満がひとつある  
わけです。中野高校とそれから中野西という今の体制でね。どっちもそれぞれ不満がある  
と。進学という点でもそうだし、ほんとに学力をつけていくという点でもそうだし、いろ  
いろ不満があると。だからそれを一緒にして普通科の、幅広くなるけれども進学もやり、  
学力をつけていく点もやるような、そういう普通科を統合していくということでどうだと。

その反対に総合学科については、統廃合をして総合学科というのが、やっぱり引っ掛か  
るんですよ。変な話ですけど、第2通学区で行われているように、1つの学校を総合  
学科にしていくということだったら、その学校が「よしやろう」ということになれば、割  
とうまくいくと思います。つまりその学校の活性化を図って、新しいことをみんなでやっ  
ていくんだという気になりますよね。

ところが中野、中実の場合にはどうしても統廃合があるもんですから、気持ちの中に「あ、  
うちの学校なくなるんだ」という話があって、そういう点ではこの中野、中実については、  
もしそうなるとしても、私は基本的に反対ですから、それはそれでずっと貫きますが、そ  
うなるとしてもやっぱり年度を少し考えてほしいと。とても19年バツサリなんていうこと  
は、小山先生もおっしゃっていましたが、19年、18年のときに半年ぐらいで準備させる、  
無理ですよ。2年、3年かけてほしい。

それからお金もかけてほしい。この前群馬に行って、先ほども言いましたが、福祉の教  
室などは、すごい金がかかっているわけですよ。お風呂だけで1千万つくわけですよ。県  
は、お風呂を1千万で買ってくれるのかと思うのです。今、中野高校でコース制で福祉や  
っていますが、大した金はもらってないですよ。市から援助されているということはあ  
ります。

そういう点では、ほんとに時間をじっくりかけていいものにしてほしいと思います。それは地域の皆さんも、そう思っていますね。変な話ですが、お金の額も出ているわけです。早く総合学科をやろうと決めて、いいものにしていこう。そのためには県からもいっぱい財政的な援助もしてもらおう。そういうような話も出ているわけです。そういう点は、やっぱりじっくり検討するような期間を、この問題についてはぜひつくってほしいと。

そうでなければ、総合学科は失敗すると思います。そういう点では、検討の期間にじっくり時間をかけてほしいし、内容を準備する期間を、しっかりつくってほしいと思っています。

どっちにしても、委員会のまとめのところでは、私が指摘したような問題点というのはしっかりと記録をして、県に報告をしてほしいと。なぜかという、私もあのとき質問しましたが、総合学科の問題点はあるんですよ。メリットももちろんあるし。だから私も全面的に否定しているわけではありませんが、総合学科のデメリットもいろいろあるわけです。これは基本的な問題なんですよ。

そこで確かに自由度はあるけれども、基本的な問題なんですよ。そのことをきちっと議論しないと、じゃあどういう総合学科をつくっていくかというときに、議論にならないんですよ。

最後にもうひとつ言いますが、群馬の新田暁高校へ視察へ行きましたよね。私はあのときは言いませんでしたが、あれは総合学科ではないと私は思います。確かに総合学科という自由度はありますが、自由選択じゃないですよ。要するに1年の後半から系列を選ばせてしまうわけですよ。系列以外の科目は取っちゃいけないとしているわけです。

ということは1年の後半から、あの学校は系列を選ぶ、系列を選んでその中から選んでいくだけで、ほかのところは選べない。そうするとこれは、総合学科のよさはまったく生かされていない。そこまで自由度があるなら、それはそれもありかなと思いますけどね。

そういう意味では、いろいろな問題点を、やっぱり、この委員会で出た問題点や地域で心配されていることについて、やっぱりきちんと報告に残して、それを地元の検討の中で、デメリットの部分については、こういうふうに対応しようとか、そういうことをぜひ議論してほしいと思います。

(中村委員長)

はい。ほかにご意見ございますでしょうか。

(塚田委員)

先ほどの地域の意見ということですが、前回11回目の皆さんのご提案を聞いて、まずひとつ一番最初に印象に残ったのは、地域もいろいろな意見があって、これはまだまだ1つにまとまっていけないなということ。

それから極論を言うと、地域で意見を1つにまとめるのは不可能だなと思いますので、そういう意味で地域の意見がまとまるまで待つということはもう無理なことだろうと思います。

ですから地域の意見はこれはどうしても、これから議論していく上でも参考には当然すべきだとは思いますが、1つにまとまってそれを待つということは無理なので、われわれ

はそれを参考にしながら議論を進めていただきたいと思います。

（小山（壽）委員）

今の塚田委員さんのお話は、非常に重要じゃないかなと思います。というのは、当然その地域の要望というのは、当然地域がそれぞれ高校を育ててきたと、非常に思いがこもっているし、できるだけ尊重しなければいけないということなんですが、どうしても情が絡んでくる。

今われわれが議論しているのは、やはり北信地区全体の高等学校の適正配置でありますので、従って情と同時に、やはり理というのがなければいけない。だから今の県下の状況を見ていると、やはり理が先に立ったために地域の情を少しも組んでいないのではないかという反発が、非常にあちらこちらで起きてきた。そのような気がします。

従って新たな学校づくりをしていくときに、地域の方々の思いをどれだけすくい上げていくかというのが今後の課題だと思うんですが、しかしそうは言っても、高等学校の今後もありようということを考えたときに、やはり情に引きずられるということはやはりまずいと思います。全体的な部分を考えながら、どういう高等学校の配置のありよう、この北信全体にとって、あるいは当然北信のことは県下全域の中における北信でありますから、「ベスト」というのはなかなか難しいというふうには思うわけです。「ベター」というようなことを考えて議論をすべきじゃないかなと思います。

（中村委員長）

はい、ありがとうございました。

ご意見いただいた、非常に大切なご意見だと思いますので、そのように進めます。それで青木さんのほうからご提案の、やはり具体的に課題等あったらということですが、その点に関してはいかがでしょうか。お気付きの点がありましたらお願いします。

私は普通科1校へ、中野、中野西を普通科1校へというご提案ですが、校地、校舎を利用するという観点からいきますといかなものでしょうか。位置的なもの、あるいは設備の話は。

（青木委員）

ただその提案をなさったグループでは、校地、校舎をどこということまでは議論が進めてないような気がします。私の情報に入っていないせん。

（中村委員長）

中野西も中野もじゅうぶん駅には近くて交通の便はよろしいかと思いますが、校舎の新しさの点、周辺の整備の様子というのはちょっと違っているかなと思います。

ほかにご意見ありますでしょうか。

(宮本委員)

先日、中野高等学校の同窓会で挙がった1案、2案、その3案がありますが、それでいくと1案は3つの高校を統合総合学科高校14クラスという提案。2案は先ほど委員長が言いましたように、普通科高校2つを8クラスにして1部の福祉コースを中野実業と一緒にして総合学科をつくるという、この2つだったと思いますが、1案についてはやっぱり、今の校舎の面、ハード面のことを委員長がおっしゃられたように、1案の14クラスというのかなり大きいなという印象がします。しかしそうかと言って、2案についても今言ったように中野高校と中野西高校の2つの普通科を一緒にした場合に、地理的なこと、あるいは中野実業高校が単独でどういう総合学科をつくっていくかというのが1つの課題だと思うのですが、どちらにもメリット、デメリットがあるかなと思いますから、やはり構想としては良いかもしれませんが、もう少し詰めなくちゃいけないところがどっちにもあるような気がします。

(中村委員長)

はい。再編整備候補案の、県教委からのご提案のものも含めてご意見がありましたらお願いします。

(小山(元)委員)

青木さんに、ちょっとお尋ねしますが、以前総合学科制について市民会議の実行委員会の方ですか、視察に行っておられたというのは、この方々ですね。

今回3つの案が出されておりますが、その視察に参加されたのは第1案、第2案、第3案、それぞれの案が出されている方が、皆さん参加されたわけですか。

その辺ちょっと、お尋ねしたいと思います。

(青木委員)

基本的に、県教委の提案したプランを受け入れるとこの間プレゼンテーションをしたグループが視察に行ったグループです。そして対案として出された3校一緒という考え方と、普通高校で1校残すという考え方は、中野高校の同窓会の方々のグループの提案でありまして、視察に行ったグループとは、またちょっと違います。

(小山(元)委員)

はい、わかりました。ありがとうございます。

(清水委員)

以前この委員会の席上で、中野実業高校の特に機械科ですとか、工業系の学科、これが総合学科に代わり得るのかというような議論があったかと思いますが、それで塚田委員さんからの資料等も踏まえて、実業高校は現状必要なのかどうかというようなことも、話は及び、実態は各企業において、率直に言って実業高校はなくても就職活動において、採用においてはそれなりにやっていけるというようなご意見もいただいていたと思うんですね。

そうした場合に、私たち今においても、実業高校における専門的な教育というのは、総

合学科にほんとに代わり得るのかなという疑問は少なからず持っていますので、この中野地区3校について、すべてのことに結論めいたものを持っているわけではないのですが、少なからず総合学科を設置するのであれば、中野実業高校をそういったものに転換していくのがいいんじゃないかなという気がしておりますがいかがでしょうか。

（中村委員長）

ただ今のご意見で、何かご意見ありますでしょうか。

（清水委員）

付け加えますが、中野実業高校の形態、それから総合学科についても今日まで、私は最初にこの委員会に入ったとき、総合学科というのはどういうものかまるっきりわかりませんでした。いろいろ勉強させていただく中で、やはり実業高校的な要素が非常に強いのではという気がしております。それであるならばそのほかの中野高校、中野西高校については具体的な意見は持っているわけではないのですが、中野実業高校を総合学科とするならば、そこに関していったほうがよろしいのではないかという意見なんです。

（中村委員長）

今の清水委員のご意見についていかがでしょう。

（市川委員）

今のご意見、私も賛成です。われわれ確かに今の工業高校という生徒が、どの程度社会に出てすぐ活躍できるかというのは、いろいろな意味で不安がありますが、それがすべてなくなっていくようなことは、私は非常に問題がある、やっぱり実業系の高校。そこで実業の教育をしていただくというのは、非常に重要だなと思っていますので、これは普通科と一緒にするんじゃなくて、実業系のものは独立した学校。これが総合学科になるということ。それを踏まえながら充実させた高校にするのがいいのではないかと思います。

（中村委員長）

議論の前提として少子化の影響で生徒数が減少する。ある程度規模を保つということになりますと、どこか統合していく学校が必要ですから、候補案のほうでは中野、中野実ということでしたが、今、意見が出ているところは普通科は2つの統合と考えてよろしいのでしょうか。

中野実も総合学科と考えて、ほかは統合という。

そういうご意見であるということでしょうか。

（清水委員）

結果的に、そういうことになろうかと思うんです。それがいいという意見ではないんですけど、総合学科をつくるのであれば中野実業高校単独で、変更していくという経路です。

(中村委員長)

ほかにございますでしょうか。

なかなか議論が慎重なようですが、いったんここで休憩を取りたいと思います。10 分ほど休憩をしたいと思います。よろしくお願いいたします。

【休憩後再開】

(中村委員長)

それでは再開いたします。第 2 区の議論に入る前に、私、前回の議論の一定の理解を得られた点を説明しなかったので、少し議論の方向がずれてきてしまったことをおわびいたします。

前回の中野実と中野高校を統合して総合学科高校へということで、一定の理解を得られたということで皆さんにご納得いただいているということで、報道もなされていますのでその点は、議論が戻るのが悪いことかということ、いいことかもしれない面もありますが、ステップとしてはそこは決めておきたいと思います。

先ほど青木委員からのご提案は、今地域からいくつか上がってきていますので、報道されたことで中野高校、中野実業高校の総合学科高校へという案で、いろいろな、今度はご提案がさらに出てきているということで、地域も動きだしています。それに対しての対案といえますか、別の案が出てきているのでその疑問点等も、ここで挙げておきたいと。推進委員会としての疑問点等を挙げておきたいということだというふうに思います。

その点、ちょっと説明をしませんでしたので、並列した案というよりは、出てきた別の意見に関してご意見をいただきたいということで、受け取っていただきたいというふうに思います。ということでいかがでしょうか。

総合学科を、どのような総合学科にしていくか等、これからもっと深く実施段階のところを検討しなければいけないというか、そこに地域の意見をどんどん入れていくということで進めていけば、よい改革へ向かっていけると思います。そこには 12 日にご提案いただいた残りの案ですね。これも参考にしていけるんじゃないかというふうに思いますので。特に疑問点がなければ。

(若麻績委員)

先ほどの総合学科の設置ということは、これはもうおおむねの理解は得られると、私も思っていますし、先ほどの意見の中に実業高校、中実が変わる。普通校のあり方という問題が、クローズアップすると思います。その普通科高校がやはり充実していくということも、極めて重要なことだと思いますので、これは県教委にひとつお聞きしますが、中野高校と西高の問題というものがある中で、県教委案の 4 ページでしょうか。近隣校の状況等の最後のところに、中野西高校の件がありますね。「地域の生徒、大学進学等への期待に応え、今後も一定規模で生徒の募集が可能である」という、その一定規模というのは、現在の規模をもっと大きく膨らます可能性も含めて考えているのかということが疑問に思いますが、それがこの中野高校、それから中実と統合されるという案の中で、どのように考えているのか聞かせてください。

(中村委員長)

事務局、お願いいたします。

(柳澤教育主幹)

募集定員は中学校の卒業者数の動向を見て、その年度毎において決定をしていくわけですが、先ほども小山委員さんからちょっと出たかと思えますけれども、今の生徒数の推移から見ますと、おおむね6学級程度で推移していくのではないかと考えています。新たに中野、中野実業高校を統合しての総合学科と、それから中野西高校で、それぞれ、おおむね6学級程度の学級規模で推移していけるんじゃないかと、こんなふうに考えております。

(中村委員長)

ほかにご質問、ご意見がありましたらお願いします。

はい。ほぼご意見が出ない状況ですので、いったんここでワンステップおいて行きたいと思いますが、先ほど申しましたように地域からの提案を尊重していく中に、ご意見をいただいたこの文章の部分ですね。これを中野実、中野高校の普通学科高校の変換に際してもじゅうぶん考慮して、もし取り入れられるところがあれば、それも含めていきたいというふうに思います。そういう報告としていきたいと思いますが。

何かございますでしょうか。よろしいでしょうか。

2区に関しては須坂地区という点がありますが、この辺特にご意見がありますでしょうか。再編整備候補案については、触れられてはいないというふうに考えますが、もちろん長野市との関連で記述がありますが、対象校はないということです。

地域からの提案の中には、非常に具体的に須坂地区の再編整備についてもご提案があります。それとの絡みで、またご議論いただく方向でよろしいでしょうか。

はい。一通り話を進めていかなければいけないと思いますので、次、1、2と来ましたので3区ということで、旧第3通学区、長野市、中条、信州新町、上水内、牟礼、その辺を含めて第3区に集中して、検討をお願いしたいと思います。

ここはまず中条、犀峡が統合ということで、再編候補案に挙がっております。中条高校の関係の方からは、この間の12日のときにご意見をいただいています。これも含めまして、具体的に課題等ありましたら、ご意見をいただきたいと思います。

(森野副委員長)

すでに何回かにわたって、中条の村長さんがお見えいただいております。特に犀峡は出されたんですかね。10月5日の文面によりますと、幾つかの希望条件があるわけですが、地域と協調したジョイント校の検討をということで、出されております。そこで犀峡、中条の両方のキャンパスを活用した再編をお願いしたいと懇願しておりますので、このジョイント校としての特色、それからあるいは長野市の分校というようなお考えをお持ちのようであります。じゅうぶん地域の検討されたご意見だと思いますので、その点を大事にしていきたいかなと思います。

それで過日の入学者の数を見ましても、1学級に満ちません。ですからその辺はある程

度了解、そしてまた地域の納得の得られるものと、私は思っております。

以上です。

(中村委員長)

地域のご提案を尊重というご意見ですが、何かほかにございますでしょうか。

ジョイント校というご提案なんですが、私はこれをご提案いただいて、ジョイント校であると双方のキャンパスを使うということで、これは交流をしていくということですから、授業をするのに大変ではないかなと思って、見てまいりました。

視察というような仰々しいものではなくて、車で行って周りを見たり、バス路線等の時刻を見たりしてきた程度ですが、19号と川を挟んで山の向かい側という位置関係にございます。2ルートの道が、アクセスの道路があるというふうに考えられますが、一方はバスが通って、一方は普通車でも1カ所、2カ所切り返さないと曲がれないような山道でしたので、なかなか移動というのは難しいかなというふうに思います。

中条と犀峡がひとつの高校として、犀峡の校地、校舎を利用するという候補案ですが、なかなか中条から犀峡へ通うというのは、難しいことではないか。移動手段がバスになるというふうに考えられますし、それにしてもちょっとした時間がかかります。また心情的にも、川と谷という、あるいは19号を挟んでということですので、ハードルが高いかなという印象を持ちました。

印象だけの話で申し訳ないのですが、犀峡高校のほうに関しましては、バス路線が3つ来ておりました。校門までですね。長野市営のバス、それから町営、信州新町の町営ですか。それと川中島バス、これは校門までかどうかちょっとわかりませんが、19号、比較的近いところまでは川中島バスが来ています。長野市営のバスは、大岡からの生徒の送迎だと思います。詳しく調べたわけではなくて、バス停を見た限りの話です。

現実的にはバス路線の強化等非常に大変なことですし、生徒の移動というのは大変ではないか。むしろ現実的には、長野市内へ中条から通っていただく選択肢のほうがいいのかなという思いをいたしました。ですのでジョイント校というところが、ちょっと私には難しい課題があるのではないかなというふうに思います。

ほかには何かありますでしょうか。

(丸山委員)

中条の問題は前から指摘していますが、結局これは今委員長さんがおっしゃったように、中条と犀峡を統合して新しい学校をとというのは、これは文章面だけでそうはならない。つまり中条高校に行っている生徒や、これから行こうとする生徒というか、そういうところの生徒たちは、結果的にはほとんど長野に行ってしまう。そういうことになれば、形だけ統合して新しい学校をとというようなことにしても、これははっきりもう中条高校が廃校と。中条高校の吸収ということにならざるを得ないと思いますね。

そういう点では私も地域の要望などを見ていて、何らかの形でやっぱり残すという方向で、いくら小規模でも残すという形をやっぱり考えるべきだと思います。地域的にいって、確かに非常に難しいところですので、通学等々難しいところですので、それから村の活性化というようなことも考えると、高校の役割とか意識というか、地域づくりのそういう点

では非常に重要な地域なので、やっぱり何らかの形で残すということは必要だろうと。

そのときにジョイントという言葉があるんですが、さっきの飯山の話と絡むんですが、ジョイント校と位置付けても、要するに単独で中条高校を何らかの形で残すという方法と、それから犀峡との実際には別々の学校のような形だが、連携しながら何かできるのかとかね。

これは1つの高校にして、それこそさっきの校舎制というのは、まったく無理な話。飯山も北と南より、もっと大変な話で、そういう点ではジョイント校という言葉だけでなく、何か中条にも学校があって高校生が通って活動していると、村とのつながりで活動しているというところを残す方法を考えるべきだと思いますね。

そういう点では小規模でも残すのか、あるいはジョイント校というふうな言葉だけれども、その中身を少し検討していくのか、分校ということもあり得るのかという予想でね。どちらにしても、やっぱり地域に高校を残すという方向を考えるべきだと思います。

(小山(壽)委員)

私も中条の育てる会の皆さんとお会いをして、お話をしました。先ほども申し上げたんですが、「情」という部分でいえば、やっぱり地域のために学校がどうしても必要だという、中条村の皆さんたちの思いはわかるわけです。そのときにも申し上げたのは、そうはいってもしかし中条村の子どもたちが、なかなか中条高校へ行っていない。長野市方面の高校へ流れている。また小川村についても、そういう状況がある。

通えないという話があったのですが、その辺についてもお聞きしたところ、確かに小川村の上のほうについては、非常に難しいところがある。しかし実際に小川村の上のほうは、なかなか暮らしが大変で小川村の中でも、下のほうに下りてきている。そんな状況から、今後については通えないということはない。ただ高校生が中条高校行かなくなってしまうと、中条村へのバスの便がなくなってしまう可能性がある。

そういう意味で、地域にとって大変なんだというようなお話はお聞きしました。ただやはり高等学校全体の適正配置ということで考えれば、地域の中学校の生徒が通っていない、もちろん通っているんですが、数が非常に限定されているということと言うならば、やはり無理があるんじゃないかな、そういうふうに思わざるを得ない。

だからもちろん、その「情」の問題というのはあるにしても、やっぱり全体の高等学校適正配置ということでいえば、やっぱり無理がある。お金というのは限られておりますので、限られたお金は、やはり効率的にその投下をしていく必要があるのではないかと、そんなふうに思います。

(中村委員長)

はい、ありがとうございます。

ほかにございますでしょうか。

(小山(元)委員)

地域高校の持つ意味というのは、非常に今も申し上げますけれど大事だと思います。私も犀峡高校の様子をちょっと見に行ったときに、学校の前のバス停のところでおばあちゃんが1人待っていてましてね。こちらのほうへ、ちょっと用事に来たんで、これで帰るなんて言っていましたけど、バスを待っているところで見たら、そのバスが高府行きが1時間も待ち時間があるんですよ。

だけどそのおばあさんは、1時間ぐらいいつも待ちますよとおっしゃいながら待っていらっしゃったのですが、だから今バスの関係を見ても、大町行きのバスは今なくなっただんですかね。高府行きはありますが、あそこもやはりバスというのは住民の方々、特に老年寄りにとっては、やはり大事な交通機関でもあるのです。

高校との関連というのは、非常に大きいと思うんですよ。ですから、この高校が即なくなる、統合される。中条を見ましても、確かに中条高校から犀峡高校、中条中は犀峡高校、小川中は犀峡高校というのは1人もいないわけですね。やっぱり沢が違い、谷が違いますから、これはちょっと交通の便からいってとても無理です。

そういうことを考えていきまして、統合するものはやはり、今後将来的には避けて通れないと思いますが、中条と犀峡を即統合というのは、やっぱり文章上の言葉の「あや」で、実質的には生徒そのものが行っていないところで統合ということは、はたしてどうかなとえるわけですが、しかし何らかの形でやはり中条高校のある形での存続というものを、大事に考える必要があるのではないかと思います。

これはやはり、そこで生活している人たち、そして今まで大事に育ててきた、そういうことを考えていきますと、何かこう地域の子どもたち、将来のところに非常に賭けている中条村、そして小川村の関係がありますからね。特に小川村でも山を越えて、北安曇のほうに向かっている斜面で生活している集落があるわけですね。そういうところの方々にすれば、高校へ通うにもその子どもたちは、そういうのはあきらめるということはあると思います。

地域に即したということが、検討委員会に前に出されておりましたけど、それも適応される地域として考えていってもいいんじゃないかと、そんなことを考えます。

(塚田委員)

私も、この中条から高校がなくなるということは、地域の人にとってすごく大きなことであるし、ショックなことだということもありまして、多分中条高校が今まで地域に果たしてきた貢献度というのは、大変大きいものがあっただろうと思います。

ただ現状を見てみますと、県教委で出していたたたき台の根拠ということでは5ページにありますが、先ほどから出ていますように、実際に中条近辺の子どもたちの育成に、うんと役に立っているかという、全体の4割弱ですよ。あとの6割は長野から通っているということです。

長野からの生徒たちの教育に、中条が力を入れるということは、地域高校としての意味がはたしてあるのかなと思います。それから中学卒業生の進路の方向を見ても、中条高校に行くのは中条中学から4名、それから小川中学から5名、全部で9名ですよ。

あとは中条中学12名が、その他の3区、それから4区と、小川中学の5名、2名が3区、

4 区ということで、この数字を見ると、やはりちょっと中条高校の地域への貢献度ということでは、はたしてどうなのかなという疑問は、やはり感じざるを得ないと思います。

あと地域的なことで、中条と犀峡が統合ということで物理的に通うのは無理だということになると思うんです。ただいずれにしろ私は、高校の全体の数も統合等で減らして行かざるを得ないということ、やはりここは考えざるを得ない地区なのかなということは思います。

（中村委員長）

はい。何としても残すというご意見と、やはり統廃合は避けられないというご意見だと思っておりますが、12 日のご提案のときにお聞きすればよかったんですが、分校化ということも意見として出されておりましたけれど、分校というのは、これはもちろん校舎は残していくということなんでしょうけど、これは市内の高校との分校化と解釈すればよろしいんでしょうか。

（丸山委員）

地元の子たちが来ていないという問題ですが、それはこの前の意見のところにも書いてあり、私もそう思いますが、今の高校の配置の仕方や学区の在り方、それから流出、流入というか通学範囲がかなり広がってきて、しかもその中に学校格差もある。

例えば中野高校で言えば、この学校も相当の広い範囲から来ているわけです。それで、その地域とのつながりでいろいろな教育内容、地域とのつながりを、地域の皆さんから講師に来てもらったり、出かけていって様々な体験をしたりやっている。それは中野地区でやっているわけです。

そういう点で言うと、今の学校は学区制がきちんとなっていないわけだから、かなり広範囲から来ざるを得ないということがあると思います。確かに中条、小川の子たちがどうかと、来ていないという問題はありますが、それはそういう背景があるということね。

それから例えば、そういう点では中条高校の地域、鬼無里や七二会や信更地区。つまり中条と、近接している長野市ですかね、その地域の西側のところですね。そういうところの子たちも含めた形を考えるとということだと思います。

それはバスで行って大変だということですが、この文章では 30 分で通えるという話になっている。ではその地域の子たちは、なぜ中条へ行くのかというと、ある面では行かざるを得ない。もう少し選んでいっているんだろうけれど、つまり地域を考えていただくと長野地区、旧長野地区や、それから議論になる第 4 区ですか。それを完全にそこを見ている、学校の配置とか学校の格差とか見ていただくと、やっぱりなかなか入りにくい。入る学校が、なかなかないという状況があるわけですよ。

だからそういう子たちは、中条に行くわけですよ。中条という学校なら行けるということだね。自分の学力からしても、通学区からしても行けるということで。そういう点でいくと、中条はそういう位置付けになっている。

そういう点では小川、中条の村だけのことでなくて、もう少し長野の西側のそこに近いところですね。そういうところも含めたということを考えて、それこそ小規模でもきちんとそういう教育ができるという、そういうことを考えていくべきだと思います。

それからもうひとつ、情という話がありました。これは確かに情と言えば情ですが、やっぱり地域づくりや村づくりとかいうのと、高校という問題はほんとにわれわれは真剣に考えていかなければいけない。どんどんその学校を都市部だけに。今の流れでいくと、高校というのは都市部にあるべきものというかね。そうになってしまうわけですよ。

もしこのまま少子化が続くと、当然過疎で村や小さな町はどんどん減るわけで、そういうところはどんどん学校を減らしていく。それでいいのかという問題が、もっと根本的にあるわけです。

そういう点では、やっぱり何らかの形で残していくということを考えるべきだと。しかも中条は、地域としてはもう少し広く考えるべきだと思います。

(中村委員長)

鬼無里方面までも考えるということですが、何かご意見はありますでしょうか。

(小山(壽)委員)

なかなかこういう問題で議論するのは難しいですが、このようなことが言えると思います。通学区が広がったことによって、非常に生徒の通学状況が変化を来しているということが言えると思います。だから丸山委員さんがおっしゃったように、地域との関係の中で学校というのは非常に重要であるということもそのとおりだと思います。

従ってやはり、残していかなければいけない学校というのは必ずあるだろう。ただ、じゃあすべてにわたって残していけるかということ、すべてにわたって残していけないから、こういうような議論が今なされている。どこは残し、どこについてはやはり断念せざるを得ないと考えなければいけないだろうと思います。

例えば今、長野市について、長野市からだいぶ離れたところから通学しているという状況があるということを、地域高校である中条高校が、地元の中学生在が、なかなか地元の高校に行っていないというような状況、これはまた考え方として別問題である。地域高校を存続させなければいけないというのは、地域の子どもたちにとってその学校しかないんだ。だからそれは、やはり存続させてもらわなければ、その子どもたちにとって非常に進学の可能性というのが閉じられていってしまう。

そういうような状況の中で、いや、ここはそうはいっても小さくなくなっても残していくべきじゃないかということになる。確かに中条と犀峡は、ルートの違いはあるわけですが、方面として言えば、同じ方面なんです。その中で長野市からより遠いところを、まず存続させるということであるならば、やっぱりすべてを同じように残していくという意味では、やはり無理がある。

教育費というのは限定されていますので、限りなくあれば、それはすべて存続させていけばいい。ところがそういうことが、もう無理になってきているから、今のこの議論がある。そういうことの中で考えれば、やはりどこかで線を引くのはやむを得ないと、こんなふうには思います。

(中村委員長)

ほかにご意見はございますでしょうか。

分校化、それからいろいろな方法が提案されているんですが、高校改革プランの懇話会、それから懇話会からの検討委員会の意見ということで、寮も検討に入れたらというような項目も、あまり強い意見ではありませんでしたが挙がったことがあります。

例えば鬼無里寮というのが、長野市内にありますけど、ここは利用する人が少なく、廃止の方向へということらしいのですが、そういったものを周辺の町村で共同で運営していくという形もとれないのかなということも考えられるというふうに思います。

強いて、寮という提案をしているわけではありませんけれど、いろいろな選択肢があるうかと思うんですが、何かほかにありますでしょうか。

(清水委員)

今、小山先生のおっしゃったことに同感ですが、確かに中条村の村長さんをはじめ、何とかジョイント校あるいは分校でもいいから残したいというお気持ち、その思いというのは、非常に理解できるというか、そういった言葉は大変失礼かもしれませんが、ほんとに切実な願いということにはよくわかります。しかし現実というものを直視した内容、とりわけ高校生、それから今後高校生になっていく子どもたち、そういった子どもたちの将来のことを考えた場合に、やはりここで、この推進委員会の役割もそうなんですが、今後将来、どういった形になっていくかということ踏まえた上での議論でなければ意味がないわけで、やはり残しておけるものであれば、どの高校も残したいわけですが、そうはいかないのが現実だということだとすれば、やはりさほど間違いなく言い切れない部分もあるにせよ、将来の高校生たちのために、存続がどうしても必要だということになりますと、今の中条高校については大変残念ですが、そこまで至らないのではないかなというのが私の考え方です。

(中村委員長)

ありがとうございました。ほかにごございますでしょうか。

中条から長野市へ通うところが、まだ問題あるんですね。長野市からは中条へは通える。中条から長野市へ、中条の全域から通うというのは物理的に無理な点がある。かといって犀峡に通うのも、ちょっとこれはバスを整備してでも、これも結構大変でしょうから、むしろ中条からはバスを整備するのであれば長野市へ通ったほうが、学校の規模等も維持できるというふうに思います。

先ほどからのご指摘、小山(壽)委員からご指摘をいただいているように、やはり現実的に考えればやむを得ない選択というところが、最善の結果かなというふうに思います。

(塚田委員)

先ほど委員長さんが、寮というようなことを言われましたが、通うということが非常に大変ということなら、やはり交通機関等、例えば補助とか。スクールバスというわけには、高校がそれぞれ違いますが、地区としてバスを出すなり、いろいろと通学に対して配慮してやるということは、代替案として考えられることだと思います。

(丸山委員)

ちょっとまだ気になりますが、今県で出ている候補案でいくと、統廃合していくというのは一定の規模を確保するためですよね。だから統廃合した結果、一定の規模は確保できるということになるわけですね。中野地区は、明らかにそういうことで狙われたんですよ。

ところがこの地域は、犀峡だって小さいわけですよ。統合したからといって、中条の子たちが犀峡に行くから、規模が大きくなっていくことはほとんどあり得ないわけですよ。そうすると、やっぱりこれは両方とも谷も違うしという話だから、両方とも小さくても残すという。だって2学級という基準があるわけですから。だから小さくても残すということで、もう少し検討したほうがいいと私は思います。

やっぱり、先ほども言いましたが、地域における高校の役割というのは、やっぱり新しい観点で考えて。中条は、例えば文化祭とかだって、地域とかなりつながっているんことをやっています。文化祭なんか、ほんとに地域ぐるみでやっていると言ってもいいくらいですよ。

そういうところを残すということ。それからもうひとつはさっき言った、地域ということでいくと、それでもきついんだけど、そうは言っても長野市内に大変な競争のところからあふれるというか、入れない子たちが中条へ行くという形があるわけです。やっぱり何らかの形で残すという方法を考えるということは、どうしても必要じゃないかなと思います。

そう簡単にバサッと切ってしまうといいのかなというのがすごく心配です。

(塚田委員)

私は今の議論から言うと、ある一定規模の学校にしていかなければならないということ、それはそうだと言うことなら、私もそう思いますが、そういうことならば、極端なことを言うと、中条も犀峡もどこかに統合せざるを得ないのかなと思います。それが今の、丸山さんの議論だとすると、そういう議論になってしまうと思います。

ただ、やっぱり地域の子もたちのことを考えると、先ほど言われていたように、やっぱり長野市から遠いということなら犀峡は残して行かざるを得ないのかなと思います。ある一定規模を保つということが、みんなそれがひとつの大前提で合意をされているということならば、この2校については全部どこかに統合をして行かざるを得ないのかなという感じはします。

(丸山委員)

そうじゃないんですよ。

全体の統廃合は、そういう考え方ですよ。ところがそれが、その統廃合、この地域については統廃合のメリットはないでしょう。それは先ほどの様な地域の状況だから、それは長野のどこかへ全部統合しちゃえというのじゃなくて、この地域の実情からいったら、両方小規模でも残すべき地域だと。それは地域の地域における学校の役割というのを、どういうものかということ、これから本質的に考えて議論していかなければいけない。そうじゃないと、みんな都市部の学校だけ残って、村や町には学校がなくなると。それでい

いんですかと。確かに効率的にはそうだけど、それでいいのか、高等学校はそういうものですかということを考えるべきところに来ている。

それは例えばこの意見の中で、犀峡と中条の研究をした団体がありますよね。この文章をよく読んでもらいたのです。そのような考え方からいったら、分校でもいいと言っているわけだから、そういうことも含めて中条、犀峡は小さいわけです、小規模なわけです。それこそ小規模のメリットを生かして、当然お金はかかりますよ。けども、ここは残すべきだろうと。

というのは地理的にいったり、村の状況からいったら、ほかの地域とちょっと違うというところがあると思うんですよ。例えば飯山は、何でそういうようにならないかという、こことは全然地形が違いますよね。確かに照丘は少し離れていますが、全然違うわけです。

そういう点でいけば、決して私はそういう意味で言っているんじゃないくて、ここは一定の規模を確保するための統廃合ということでは、まったくそういう形にはならないわけだから、そういう地域だから逆に残していく。

(中村委員長)

小規模で、充実した教育が成り立たないので、ちょっと大変ですが長野市に通っていたいて、一定の規模で教育を受ける、そういう考え方も大前提になっているような気がするんですが、丸山委員、いかがですか。

残して中条で高校教育を受けるのと、ちょっと大変ですが長野市へ通っていただいて、長野市といえますか、都市部へ通っていただいてというふうに。

(丸山委員)

それは先ほど言いましたが、ひとつは地域の問題です。確かに数や、効率からいくとそういうことにはなりますが、やっぱり地域に高校があるかないかという問題は、これはもう少しわれわれは深刻に考えたほうがいいと思いますね。

それから先ほど言いましたが、長野地区は競争が激しくて入れない。募集定員は用意していますよといっても、なかなか入りにくい。これはこれからの議論の、長野南との関連も出てきますが。

だから長野地区へみんな通って、大変だけど通ってちゃんとした高校教育を受けられるからいいじゃないかということにはならないと思うんです。

(森野副委員長)

私は丸山委員のご意見に賛成です。先ほど鬼無里寮という話がありましたが、それは戦後高校教育の必要性が感じられたときに、鬼無里で造ったわけです。今は、交通の便がいいから、鬼無里寮へは入らない、こういうことなんです。

ですからそれを中条が、中条の軸というものを長野へ出すということになると、子どもがみんな長野へ行っちゃうんですね。村の文化の拠点としての高校がなくなるということは、地域が寂れちゃうんです。だんだん過疎になっちゃうわけです。

だから、高校という拠点を持つことによって活性化されている。だから犀峡がカヌーをやっていますよね。これもやはり知恵を働かせたことでしょうね。それから中条は馬術を

やっています。これもお寺さんでしたか。その方が村の活性化ということで、これが中条高校、やはり発展させてきているかと思うのです。

そのように、村ぐるみで高校を育てようとしているわけです。だから村としても、交通費を払って長野の子どもを中条へよこしているわけで、これが実績ですね。だから先ほども「情」というお話がありましたが、やはり高校がなくなるということは、村がなくなるということなんですよ。

だから経済効果もなくなりますし、そういうことで村長さんも懸命なんだろうと思いますね。そんなことからして、拠点がなくなるということは、やはり村の存亡といえますか、そういったものがなくなっていくというようなことでね。

ですから、高校生が来ないとバス路線がなくなるんじゃないですか。人が乗らないということですから。バスも来ない、そうすると頼りになるのは自家用車。そうすると高齢化も進んでおり、また、道路は危険度も高いですから。そのようになってくると、やはり丸山委員の言うように、村の存亡を賭けた高校というものを、これはやはり地域性として考えていただきたいと私は思います。

（宮本委員）

地域のことを考えると、高校を残してほしいという気持ちはわかります。私のところも村長さんが来まして、お話をお聞きしたわけですが、中学校の立場としますと、先ほど出ましたけれども、中学生がどうして犀峽、中条へ行くかという、やはり長野市内の高校へは入れない場合がかなり多いわけです。

本人たちは、どうしても市内の学校へ行きたいが、高校に入りたい。そういうことで、選択ということで中条、犀峽まで選ぶということになって、どうしても子どもたちの第一希望ではないわけですし、そういうことを考えると複雑な思いで中学の進路指導をやっています。

地域のために子どもたちを遠くから、長野市内から行くのかということになって、子どもたちに、ほんとに高校へ入りたければ、空いている高校はあるかなという話をしなければいけないということで、かなり悩むわけですが、やはり県の候補案にありますが、中条と犀峽を統合したとしても、やはり最終的には魅力ある学校づくりをしない限り、これから高校に入る中学生が、やはりそこに入りたいという気持ちがなければ、なかなか生徒の数が集まらないという現実があると思います。

長野県以外の高校を調べたときに、そういう小さい学校でもかなりアイデアを出して、魅力を出して、どうしてもそういう田舎だけれども行きたいという地域の高校というのは、数多くありまして、やはりこのまま、現在はなかなかそういう議論は進まないのですが、システムの配置をするならば、このまま行くなれば、やはり中学生の立場とすれば、遠いところまで行くメリットがあるという高校がない限り、やはり犀峽と中条については中学生の立場とすれば、検討しなければいけないことであると思います。

確かに地域ということを考えればわかりますが、これから入る子どもたちの立場となると、なかなか難しいかなという気はします。

(中沢委員)

中条高校の関連についても、私もいろいろなところから要望は聞いているところでございます。地域において高校がなくなる、複数の高校があって、そして1校が減るということと、意味は違います。しかしながらこの地域というのは、地域興しとかあるいはいろいろな影響が昔からの中心地であったことも事実です。

ただ入学者等の状況を見ますと、犀峡にしる中条にしる、1つの高校を存続させるだけの、そういった要請だったかなという、これまた難しいなと思います。合わせて、犀峡と中条高校を統合するということで、中条からそちらへ行ったという、これまた難しい場所にあるなと思います。

そうするとどちらかという、長野とのつながりが出ちゃいます。さあ、どうするということになると、ある面での選択はやむを得ないなと。先ほどジョイント高校というようなことのお話も1つの話とは出ましたが、2つぐらいでともあるが、それも無理があるかなと思います。

とすれば、しかしどうするかという、高校がいろいろ交流する場所、あるいは中学生等が交流場所、あの山の自然の中で中条高校を舞台にしてというような発想ができないかなと。そういうことを、県の教育委員会なりが違う角度で、いろいろ見てやるようなこと等を踏まえながら、いろいろと研究して行かざるを得ないなと、ある面では物理的というか、現状では2つ存続させるということは無理があるなとこのように思います。

(清水委員)

ちょっとお尋ねしますが、中条高校およびこの犀峡高校周辺の小中学校の数と、その生徒数の推移についての資料がもしあれば、お聞かせいただきたいのですが。

(三澤教育支援主事)

すみません。

学校数につきましては、6校がございます。それと人数の推移につきましては、ちょっと今、手元には資料がございませんので、お調べして次回お出しするような格好になるかどうかとなりますが、よろしいでしょうか。

(清水委員)

はい、ありがとうございます。

資料を足していただきましたが、やはりその地区の子どもたちの状況は少子化が進行している現状が事実のようでありますね。ですから、その辺についてはそういったことも、もう皆さんおっしゃっていることはよく理解はできるし、そのとおりだとは思いますが、やはりそういった現実的なものもかなり重要視していかなければ、結論は出ないなという気がいたします。

(中村委員長)

ほぼ二通りの意見だと思いますが、中条高校を残すということになりますと、何か方策を考えないといけない。それからもし、充実を図るのであれば、犀峽との統合というのはあまり現実的ではないし、効果もない。むしろ長野市内へ、都市部へというほうが現実的であるのではないかというようなご意見かと思うんですが、ほかの観点はございますでしょうか。

高校の魅力をつくるという面では、もうすでに相当やられていることだと思いますが、それでも生徒数減少等でかなりの少人数になってしまっている。少人数のまま教育を続けていくことのメリットもあるとは思いますが、高校改革の中の全体から見ますとやはり再編整備を進めていく方向が主になっていると思いますが。

もしご意見が、一段落したというふうに判断できますと、これをこれで打ち切りということではないんですが、次の議論へ進めたいと思いますが。

次というのは第3区の中で、再編整備候補案に挙がっているところということになります。時間が、あと十何分ですか。いかがいたしましょう。

私はちょっと確認しておきたいんですが、例えば犀峽と中条を統合ということが、あまり現実的でないというご意見が幾つか出ているんですが、学校はやはり廃校というよりは、再編をしていく方向が生徒たちにとってもメリットがあることだと思います。気を配らなければいけないことだと思うんですが、もし中条高校と犀峽とではない高校との再編をした場合には、どのあたりの高校が考えられるか、何かご意見をお持ちでしょうか。

例えば中条から現実的に長野市内、多分長野市内へ通うのが一番よろしいかと思うんですが、近い高校ということになるのでしょうか。バス路線は、安茂里あたりにも駅がありますし、安茂里まで来るとしなの鉄道なり、長野駅からのアクセスが簡単だと思いますが、バスターミナルまで行く路線もありますね。

あまり具体的な話になると、意見が停滞しますので、何かお考えがあれば、よろしいですか。

(中沢委員)

いいですか。

今、委員長さんがおっしゃるように、その学校が廃校ということ、こんな厳しいことはあり得ない。この委員会でやるには、誰でも「こういうことでどうだ」ということを、もう少し。中条をどうするかということに、知恵を絞って論議したいと思いますが、そうではないと1つの地域、そしてまた山間地の中で廃校ということ、やむを得ない事情はあるけれども、それに変わることが村でできないかということを考える場があっていただければいいなと、このように思いますのでよろしくお願いします。

(中村委員長)

はい、そのとおりだと。

(小山(壽)委員)

かわって、いいですか。

私も断定的なことは言えないんですが、かつて中条と犀峡の学校の歴史をちょっと調べたことがありまして、犀峡高校より中条高校のほうが古いんですね。実は今、信州新町の地区の方たちも、実は中条高校に通っていた。西部農学校の時代はですが、中条高校に通っていた。

そういうような経緯があって、やがて犀峡高校ができることによって、犀峡高校という名前じゃなかったんですが、あの地域の人たちはそちらの学校に通う、そういう意味でいうと、歴史的に言えば犀峡と中条というのは、やはり一体的なんです。

今、現実的に交通機関が非常に発達してくる中で、必ずしも中条から犀峡に向かうということではない。あるいは犀峡から中条、信州新町から中条へという生徒は、あまりいなくなると。現在の状況ですが、その学校の歴史的な経緯から見ると、そういうある種、共通の土壌といいますか、共通の伝統のようなものがあったんじゃないかなというふうに思うんですね。

特に中条の場合には、「西山大学」というようなことをみんな言って、あの地域の農業にものすごく大きな影響を、中条村だけではなくて支えてきた。そのような状況がありますので、あえて長野方面のどこかというような言い方をするよりは、歴史的な経緯から見れば確かに距離はあって、相互にというのは困難ではあるんですが、やはり犀峡と統合というのが歴史的にはいいのかなと感じます。

(中村委員長)

はい。ご指摘ありがとうございました。

(吉江高校教育課長)

先ほどもちょっとご質問もありまして、今も小山(壽)委員さんのお話もございましたように、例えば長野市内校であれば、どこが近い近くないというような議論をおっしゃれるというのは、対象になる学校が「こことかここにあるのだな」というようなものが、まったくイメージとしてはわからないわけではございません。

ただしかしながら、今もお話がございましたように、上水内郡のある地域、よく言われておりますように中条、小川および信州新町というのは、同一の地域というようなイメージで、非常に前々から結びつきが強い地域でございますので、それを考えた場合に、先ほど来推進委員会の皆さま方の中で統廃合とか、あるいは廃校というような議論も出ておりますが、あくまでも私どもは基本的には今の中条高校が持つよさ、先ほどもいい点をいろいろご指摘いただいております。

またコース制等も実施しておりますので、そういうようなものは、ぜひ統合校において継承していただく形で、また今後の交通の利便性というようなことでありますと、それについては何らかの方策が可能かどうか、それはまた別途で、これは単に第1通学区限らず問題が出る地域というのは、場合によってはあろうかと思っています。

それを今の段階でなかなか具体的に申し上げるというわけにはまいりませんが、県教委としてもそういうような方策も考えていく面もあろうかと考えておりますので、その辺も

含めましてご議論いただければと思う次第でございます。

（中村委員長）

ありがとうございました。

時間が若干あるので、新しい議論というよりはそのまま続けたほうがよさそうですので、今の交通の整備、交通手段の整備も含めまして、より充実した方向へ向かうようなご意見、アイデア等ありましたら出していただきながら、今日のところはそのまま続けたいと思います。

中条高校あるいは中条と犀峡を統合したところで、人数の面で充実を図ることもあり、ほかの地域からの生徒も増えてもらわないと困ると思うんですが、信州新町まではこれは、交通の便というのは。乗用車であれば、非常に簡単かとは思いますが、これはいかがでしょうか。

バス路線は、整備されているのでしょうか。やはり魅力づくりという面では、人の流入を考えることはできるということだと思います。

犀峡高校に来ているバスというのは、長野市営のバスを私は見たんですが、それは長野市内からというよりは大岡からなんですかね。そういうデータがあれば、教えていただきたいと思います。「大岡」という名前が路線名には書いてありました。町営のバスも、川中島バスもありまして、バスはまだいいと。1時間待っているおばあさんの話、先ほど出ましたけれども、バスは整備されていると思います。

町営のバスというのは、デマンドバスですか。そのデータはございますか。

事務局、お願いいたします。

（三澤教育支援主事）

ちょっと細かいところまでわかりませんので、もしよろしければ次回調べてお答えするような形でよろしいでしょうか。

（中村委員長）

はい。お願いします。

それではもう、意見が出にくくなってきましたので、ここでいったん終了したいと思います。後ほど、冒頭のところで私が説明しましたが、やはり12月末をめどにということで、進めることには変わりありません。

これは全県の4つの推進委員会との関係もありますし、かといって議論を制限して、深めないで、拙速で行くということではございませんで、今いただいている議論の中で、最適なところを探りながら報告書にまとめていくということだというふうに思います。

報告書に関しては議事録等を見ながら、あるいはここ2、3回の議論が一番深まったところかと思うんですが、そういうものを参考にして、文面としてお出しして、それを委員の皆さんでまたご検討いただくという方向を取りたいと思いますが、そういう方向でよろしいでしょうか。

(丸山委員)

いろいろな地区が、最後の詰めの議論になってますが、まだそれぞれのみんな最終的にこうだということで、決定をしたわけでは。大方の方向が見えてきているところもあるんですけど、その点で行くと長野南、松代の問題、それから多部制・単位制の問題というのには残っていますよね。特に長野南、松代の問題については、ほとんどまだ何というか、煮詰めた議論にはなっていないわけですよ。

その辺で行くと、12月ということはありませんが、まとめた文章、原案に基づいてまた議論があると思うから、今からすぐにじゃなくていいけど、1月もやっぱり見通して考えていただいたほうがいいんじゃないかなと思います。

あと12月に2回じゃなくて3回あるかどうか分かりませんが、そういう問題も含めて考えてたら、やっぱりその辺も含めてほしいし、それからどういうまとめ方というか、報告にするのかということも、完全に県教委の候補案に対して対案をきちんとまとめるのかどうかという問題があると思うんです。

あるいは場合によっては、候補案についてこういう点が問題点があり、こういう点が県教委が検討しなさいという、問題点の指摘ということにとどまるかもしれないし、あるいは幾つかの意見が並列されてということもあるだろうし、そういうことからいくと、12月に何回やるかということにもかかわりますが、やっぱり1月を覚悟しなきゃいけないんじゃないかなというふうに思いますが、それは次回でいいかもしれませんが...

(中村委員長)

はい。ひとまず見通しを示しておかないと、なかなか先に進みませんので、12月に3回でしょうか。3回、1月で文面のまとめというふうにいきたいとは思いますが。

南高、松代の問題に関しても、ほとんど議論してありません。今日入れればなと思っていましたが、きちんと深めていけないといけない意見がたくさん出てきていますので、時間がもう来ていますが、次回ですね。3区、それから4区というふうにやっていきますと、一通り意見聴取をしながら検討していただいたということになります。

どういう報告になるかというのも、ある程度イメージを持っていないといけないんですが、地域の実情、地域のご意見を尊重しながらまとめていく。また小山先生の言われる、情に流されず、理にかなったところをきちんと出していくのが推進委員会の役割だと思いますので、地域の意見がある程度まとまって方向性が一致しているところは、それを最大限尊重して報告書にまとめていく。あるいは候補案と対立するようなことがあれば、その理由をきちんと書いて、地域のご提案を尊重していくという方向だと思います。

また地域的には、須坂市のところが非常に近接している高校があるにもかかわらず、触れていないという、別の団体からのご提案もありますので、そういった点も、これは突っ込んだ報告ということでなくて、例えば須坂市の高校の関係で、地域でも話し合う団体を立ち上げながら、今後のより良い高校教育のために、またご提案なり、高校をどうしていくのかといったことも、地域で真剣に検討いただきたいというような、逆に推進委員会からのお願いも添えたり、そういうことも含めて報告書にしていきたいというふうに思います。

ですから地域によっては、段階的にといいますか、すべての旧4通学区全体にわたって

統一した口調での報告書というよりは、議論の深みに応じた報告書になるというふうに考えています。

何かご意見がありましたら。これは推進委員会として進めていく話ですので。

それから1つ前提になるのは、地域のことを尊重するということにはなるんですが、やはり全県、それから第1通学区全体を見渡した議論が、この推進委員会の役割ですので、再編整備の実施計画に意見を申し上げるときには、やはり実施計画は一度に、一斉にスタートして行こうと。それで実際に着手をしながら、ハード面とかソフト面は段階に応じて進めるところが出てくるのは、これは当たり前の話です。予算の面もありますでしょうし、手順もありますので、計画は一度示す。その実施段階でのスタートの早い、遅いというのは、その地域によって違ってくるというふうに考えています。それはひとつ、前提として考えなければいけないことかなと思います。

進め方でご意見がなければ、今のようによろしいでしょうか。

はい、それでは次回は、まだ中条、犀峡の話題が途中ですので、そのあたり。あるいは3区の残りの地域、4区というふうに進めていきたいと思います。

今日はお聞きしなかったのですが、一部報告いただきましたが、地域からのご意見、各団体からのご意見、もし情報があればまた次回、お話ししたいしたいと思います。

事務局から、お願いいたします。

（三澤教育支援主事）

次回以降の日程の件でございますが、お手元にまた日程確認表をお配りさせていただいております。前回11月、12月ということで、ご予約入れていただいたわけですが、また12月に入りましてご予約の変更等ございました委員さんもいらっしゃるようですので、もう一度ご記入いただきたいと思います。

日程的には、予定といたしまして、次回できれば12月の10、11のあたりに調整させていただければと思っております。

よろしくお願いします。

（中村委員長）

3回行ふということが出ていますが、その辺は、今から決めなくても。議論の進展に応じてということによろしいでしょうか。

そうすると11月10日ぐらいになりますと、あとは3回、1週間に1ぺんということになってしまいます。その辺も含めまして進めたいと思います。

（三澤教育支援主事）

それでは回数のご含めまして、また委員長さまと連絡を取らせていただいて、日程確認表をいただいたところで、また調整させていただきたいと思います。

よろしくお願いします。

( 中村委員長 )

ありがとうございました。

何か特にございますでしょうか。

なければ。よろしいですか。

それでは、第 12 回の高等学校改革プラン推進委員会を閉じさせていただきます。お疲れさまでした。